学校番号	3002

令和８年度　数学科

教科	数学科	科目	数学演習	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	新課程　ジュニア演習　数学Ⅰ・A　受験編（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

演習を通して数学的な考え方を身につけ、さらに活用する力をつける。
①数学Ⅰ・Aを基礎とした演習に取り組む。
②予習を前提とし，授業内で黒板に答案を書かせて添削指導を行う。
③基本事項の復習と問題演習を織り交ぜて授業を行う。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
数学Ⅰ，数学Aの中の各単元で習得した基礎的な知識と習熟した技能を基に予習を行う。
【思考力、判断力、表現力等】
認識を深めた数学と人間の活動の関係と，培った事象を数学的に考察する能力を活用し，積極的に応用的な課題に取り組む。
【学びに向かう力、人間性等】
数学的な表現を用いて様々な現象を表現し，答案の発表を通じて課題についてより深く学ぶ。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力、図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見いだし，論理的に考察する力，不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見いだし，数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	数学Ⅰ	式の展開･因数分解 根号を含む式の計算 1次不等式	a:解の意味を理解し、不等式を解くことができる。 b:身近な問題を立式し、問題を解決することができる。 c:学習事項の記入ができる。	定期考査	定期考査	授業観察 演習 ノート
	数学Ⅰ	2次関数のグラフ 2次関数の最大･最小 グラフと2次方程式 グラフと2次不等式	a:2次不等式を利用する応用問題を解くことができる。 b:2次式の条件を、グラフと関連させて考察することができる。 c:学習事項の記入ができる。	定期考査	定期考査	授業観察 演習 ノート
2学期	数学Ⅰ	三角比 正弦定理･余弦定理 図形の計算 集合と命題	a:正弦定理、余弦定理を空間図形の計量に応用できる。 b:三角比と三角形の関係を考察することができる。 c:学習事項の記入ができる。	定期考査	定期考査	授業観察 演習 ノート
	数学Ａ	場合の数, 順列 組合せ 確率(1) 確率(2) 確率(3)	a:期待値の定義を理解し、期待値を求めることができる。 b:集合の性質を用いて、確率の性質を考察することができる。 c:学習事項の記入ができる。	定期考査	定期考査	授業観察 演習 ノート
3学期	数学Ａ	平面図形(1) 平面図形(2) 数学と人間の活動(1) 数学と人間の活動(2)	a:三角形の外心、内心、垂心の定義、性質を理解している。 b:チェバの定理、メネラウスの定理について、論理的に考察し、問題を解くことができる。 c:学習事項の記入ができる。	定期考査	定期考査	授業観察 演習 ノート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度